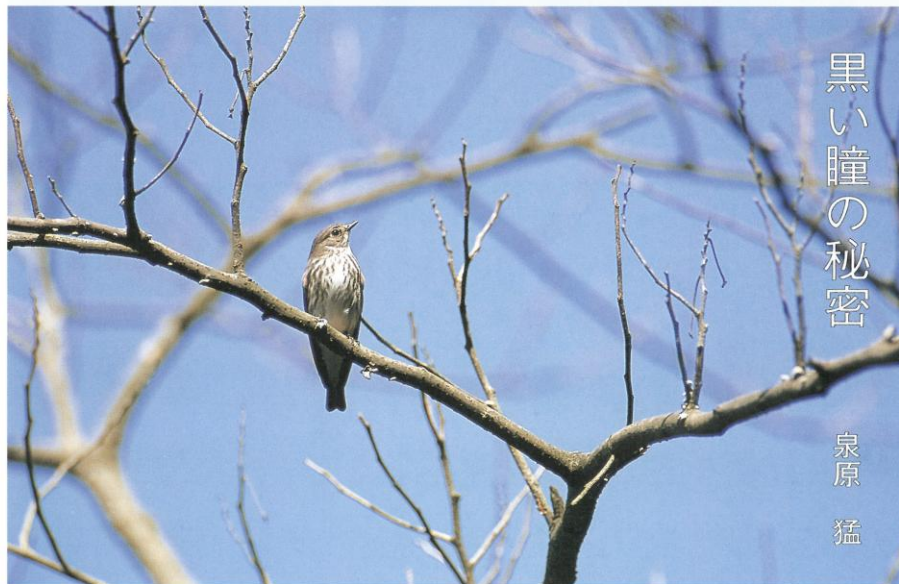


Photo Column

フォトコラム・自然観察



黒い瞳の秘密

泉原 猛

「エゾビタキ」

胸と脇腹にある暗褐色の縦斑を確認することで、よく似ているサメビタキ、コサメビタキと区別する。

中国北東部やロシアの極東地方・カムチャツカ半島、サハリンなどで繁殖し、冬はフィリピンやニューギニア等で過ごすため、日本では春秋に通過する旅鳥である。

県内で春に見かけることは少なく、秋の数日、ほとんど無言のまま休息や採餌をしている姿を近郊の林で見ることができる。

野性的でしかも端正な目でたち。その瞳が、ひととき大きくつぶらに見えるのは、目のふちにある肉質のリングの部分黒色であるためといわれる。いわばアイ・ライン効果の一つである。

日本の青い秋空が、昔のような深みを保っているのかどうか、その黒い瞳に聞いてみたいような気がする。

いずはら・たけし 一九三五年東宇和郡城川町生まれ。環境省環境カウンセラー、日本野鳥の会愛媛県支部副支部長。自然観察の素嗜らしさは、年齢世代を超えて共学できる点にある。五月の愛鳥教室がきっかけで、一市の小学四年生Nちゃんと「メル友」になった。私の最年少の友達である。

(写真は一九八六年九月二十二日、伊予市えひめ森林公園にて)

文化愛媛 No.49 ￥500(税込)
発行/平成14年(2002)10月1日
発行所/愛媛県松山市道後町2-5-1
財団法人愛媛県文化振興財団